

地球温暖化対策実施状況報告書

2019年7月 日

（報告先）
横浜市長

住所 神奈川県横浜市青葉区緑山2100番地

氏名 株式会社 緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 難波 一弘

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	株式会社緑山スタジオ・シティ 代表取締役社長 難波 一弘				
事業者の主たる 事業所の所在地	神奈川県横浜市青葉区緑山2100番地				
主たる事業の業種	大分類	K 不動産業、物品賃貸業			
	中分類	69 不動産賃貸業・管理業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	1,881	kl	自動車の台数	台

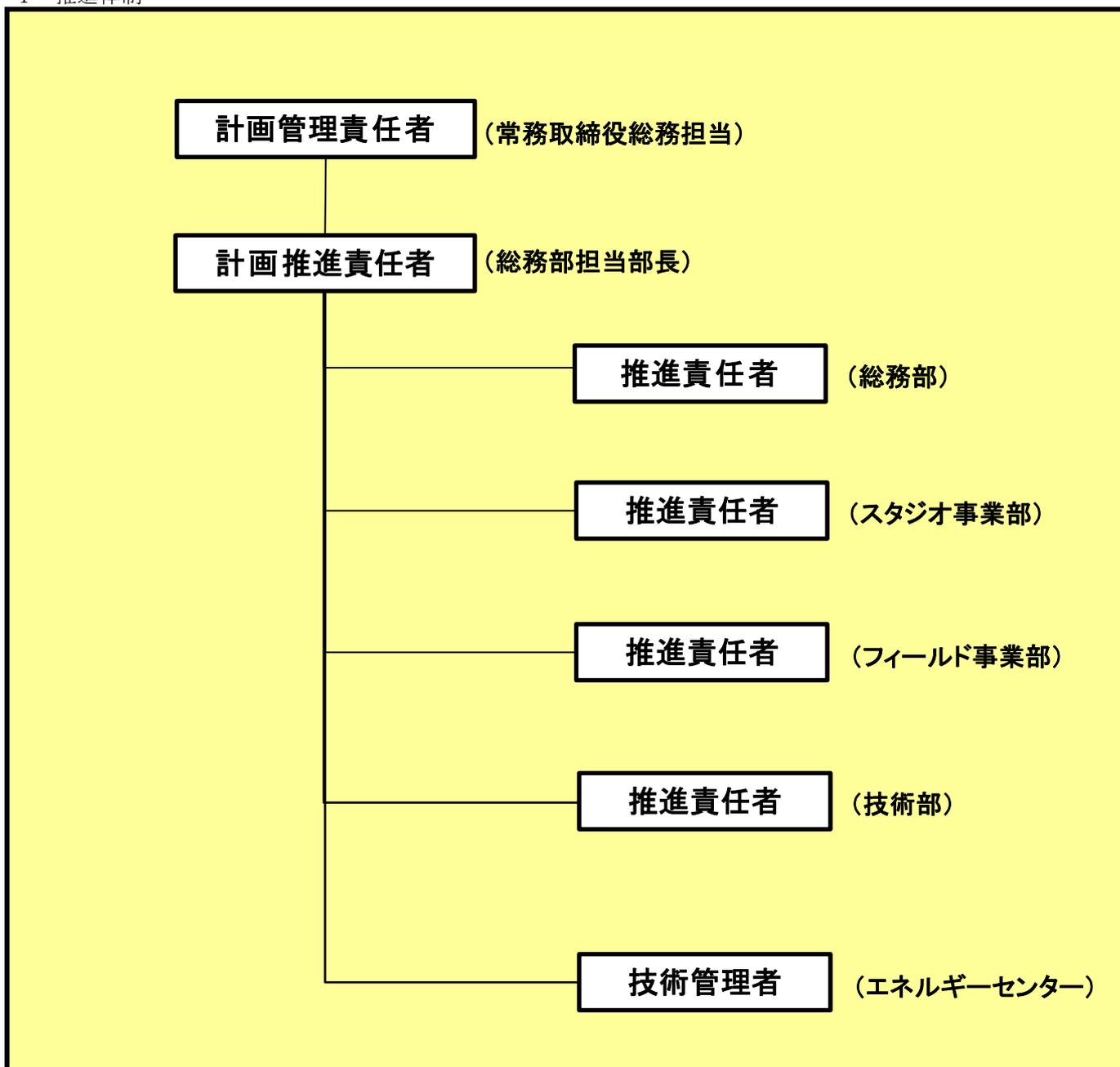
2 計画期間及び実施年度

計画期間	2016	年度～	2018	年度	実施年度	2018	年度
------	------	-----	------	----	------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針] 無駄なエネルギー消費を無くし、合理的なエネルギーの利用を目指しています。スタジオでは昼夜問わず多種の人が出入りする場所である為、各自の省エネに対する考えが必要になります。そのためにはテナント各社及び番組スタッフの協力が不可欠となる為、必要に応じ、省エネ対策等、具体的な取り組みへの協力を呼び掛けております。また、この計画書に基づき設備的な改善等による省エネ対策、温室効果ガス排出抑制に今後も継続して取り組む方針であります。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討] ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 空調設備のインバータ導入 ②上記①の設備を選択した理由 空調設備に対する負荷の軽減と省エネの為 ③設備更新スケジュール まず、平成28年度に試験的に2台程インバータを導入する予定であります。 これは、高調波等の確認と運用に問題がないか確認する意味もあり、この結果運用に問題ないようであれば、空調設備等随時インバータ化を推進して計画的に更新していけないのではないかと考えております。</p>

4 推進体制



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	(株)緑山スタジオ・シティ 総務部
	所在地	横浜市青葉区緑山2100番地
	閲覧可能時間	9 ; 30~17 ; 30 (平日のみ)
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	3,734	t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	3,676	t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /	
目標年度 (2018年度)	目標排出量	3,600	t-CO ₂	削減率	3.6 %	削減率		%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	温室効果ガス排出抑制する最大の要素としては省エネ設備の導入であると考えております。そのためには予算との関連がありますので計画的な設備更新を今後も検討していく必要がありますが、まずはインバーター設備導入を継続して計画していきたいと思っております。また構内従業員の更なる省エネへの取り組みによる温室効果ガス排出抑制も目標として考えております。								
事業者全体としての目標等	従業員だけではなくテナントであるスタジオスタッフ等を含め省エネに取り組み、エネルギー排出を抑え、地球温暖化対策に貢献できるよう努力していこうと考えております。そのためには個人の省エネに対する考え方が必要でありますので、具体的な省エネ会議、勉強会等含め周知徹底を目指していきたいと思っております。また省エネ設備の導入も計画的に推進していこうと考えております。								
第一年度 (2016年度)	排出量	3,811	t-CO ₂	削減率	▲ 2.1 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	3,719	t-CO ₂	削減率	▲ 1.2 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	基準年度に対しこの度CO2排出量を削減出来なかった原因としましては、1スタジオあたりの電力使用量の増加、及び各テナントの電力使用の増加が考えられます。番組センターでは、電力の軽減を図ることが出来ましたので引き続き各テナントにも省エネを呼びかけ、電力使用量の削減を目指します。								
第二年度 (2017年度)	排出量	3,732	t-CO ₂	削減率	0.1 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	3,534	t-CO ₂	削減率	3.9 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	基準年度に対し、CO2排出量を削減する事が出来ました。要因としましては、1スタジオあたりの電力使用量の減少及び各テナントの電力使用量の減少、また編集室として長年使用されていた部屋が解体された事により、大幅に電力使用量が減少した事が考えられます。設備に関しましても、共用部照明器具を一部LED化し、スタジオ用空調設備にインバーター制御装置を導入する事で、電力使用量の削減に努めております。								
第三年度 (2018年度)	排出量	3,696	t-CO ₂	削減率	1.0 %	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後	3,421	t-CO ₂	削減率	6.9 %		削減率		%
目標等の達成状況及び説明	基準年度に対し、CO2排出量を削減する事が出来ました。当初目標にしておりました省エネ設備の導入に関しても、2018年度には共用部の照明器具を約220台程LED化する事で電力使用量の削減に努めました。今後も省エネ機器の導入を推進し温室効果ガス排出抑制に努めていきたいと思っております。								
計画期間全体の排出状況に関する説明	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間全体における排出量の変動要因 近年ドラマ撮影等に使用されますスタジオの電力使用量が1ステージあたり増えている傾向にあります。緑山スタジオはドラマスタジオであり昼夜、365日間わず撮影が行われます。1ステージ短い時間で終わる撮影も有れば長時間の撮影に及ぶことも御座います。セット等で照明等の使用量が大きく変わる為、撮影するドラマにより使用電力量が大きく変わりますが、最近の傾向では照明を多く使用する事が増え、2015年度には1ステージあたり2,220[kWh]だったものが2018年度に2,750[kWh]となっております。2017年度からは電力使用の多かった編集室が解体された事で2017年度、2018年度は温室効果ガス排出量が減らせました。今後、スタジオ照明のLED化を計画し温室効果ガス排出の削減に努めます。								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 （年度）	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /	
目標年度 （年度）	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方									
事業者全体としての目標等									
第一年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
第二年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
第三年度 （年度）	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /	
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%	
目標等の達成状況及び説明									
計画期間全体の排出状況に関する説明									

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
3,000k l 以上								
1,500k l 以上 3,000k l 未満	1	3,734	1	3,811	1	3,732	1	3,696
500k l 以上 1,500k l 未満								
500k l 未満								
合計	1	3,734	1	3,811	1	3,732	1	3,696

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為	非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為	非該当	/	—	年度	地下駐車場が無い為	
	13	照明設備の高効率化	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		実施済	1/1	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) 冷凍機・ボイラー 4/4	—	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機・ボイラー 4/4	—	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機・ボイラー 4/4	—	年度		
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) 冷凍機 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) 冷凍機 2/2	—	年度		
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		
	18	排出ガス温度の管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		実施済	(設備の種類) ボイラー 2/2	—	年度		
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	実施済	(設備の種類) バルブ、ベクター 12/12	—	年度		実施済	(設備の種類) バルブ、ベクター 12/12	—	年度		実施済	(設備の種類) バルブ、ベクター 12/12	—	年度		
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類) /	—	年度	工業炉を設置していない為	非該当	(設備の種類) /	—	年度	工業炉を設置していない為	非該当	(設備の種類) /	—	年度	工業炉を設置していない為	
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	実施済	実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		実施済	(設備の種類) コンプレッサー 3/3	—	年度		

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度				
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1	太陽熱温水器	1981年度	メーカー：矢崎総業(株) 型式：SC-201S(B)-R	排出抑制効果 167,987kWh/年
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	275t-CO2	東京電力エナジーパートナー(株)
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物のリサイクル率を毎月一覧表に示し、リサイクル率向上を目指しております。 ・構内従業員及びスタジオスタッフに省エネ、節水を掲示等で周知徹底を図っております。 ・適切な樹木の剪定による緑地の保全。 ・自動販売機の消灯。
計画期間内に実施する対策	<ul style="list-style-type: none"> ・上記対策の継続的な実施及び更なる検討。 ・最新の省エネ関連の展示会等への積極的な参加。 ・従業員の通勤を自動車、バイク利用から公共交通機関の利用への促進。
第一年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社有車を1台、ガソリン車から電気自動車へ変更。 ・上記対策の継続的な実施及び更なる検討。 ・最新の省エネ関連の展示会等への積極的な参加。 ・従業員の通勤を自動車、バイク利用から公共交通機関の利用への促進。
第二年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上記対策の継続的な実施及び更なる検討。
第三年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上記対策の継続的な実施及び更なる検討。

14 実施状況等に対する自己評価

計画期間において、スタジオ用空調機にインバーター制御装置の導入や共用部照明器具のLED化等、省エネ設備の計画的な導入をすることが出来ました。
今後も、スタジオや屋内テナント事務所、共用部などのLED化を計画推進し温室効果ガス排出量削減に努めます。